

海なし県・埼玉発!

未来の海を守ろ! 海と埼玉研究所



県内の小学生が海と海に繋がる河川について学ぶ「海なし県・埼玉発!未来の海を守ろう 海と埼玉研究所」が8月16日から17日の2日間に渡って開催された。日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環で、同プロジェクト in 埼玉県実行委員会が主催。県内の小学5、6年生19人が「海と埼玉研究員」として参加し、県内の川や茨城県大洗町の海の現状を学んだ。

内陸部に位置する埼玉県は、海洋教育がほとんど実施されていない。しかし、県土を占める河川面積は3・9割と日本一であり、河川は海に繋がっているという観点から、河川と海の両方を知ることで未来の海を守るためにできることを考えよう企画された。

初日、研究員メンバーは海を占める河川について学ぶ。河川をテーマにした総合博物館「川の博物館」(寄居町)を訪れた。学芸員の藤田宏之さんの案内で園内の荒川の模型を見ながら地形や歴史を学んだ。太古は秩父市周辺が海だったと明かされ、やサワガニなどの外来種が河川を流れ、宮川の水を採取する生き物を採取。アメンボが海を汚すことを確認した一方、海水を滴垂らした水道水が汚染を示す反応が出たことを指摘。「水を汚すことは非常に簡単。大切にしましょう」と呼びかけた。

同館を後にした一行は、海に面した茨城県大洗町に移動。NPO法人「大洗海の大学」で大洗の海で見られる魚や、海水と淡水が入り混じっている汽水湖である潤沼などを確認した。

2日目は大洗サンビーチで洗濯場を訪れた。まずゴミ拾いを実施し、踏むところの恐怖感や遊び方を伝授。ラバーコの吸い殻などを集めながら自らサンマをさばいて網で焼き、海を眺めながら新鮮な味覚を堪能した。

最後はまとめとして学習について説明を受けた。水族館の飼育委員の仕事を紹介され、定置網で採集した大量の魚や4つ以上あるというウバザメの写真に歓声が上がり、最後にレクチャーやタバコの吸い殻などをを集めながら自由に表現。「出かけた際もゴミを出来るだけ減らし、出したら持ち帰る」「海に繋がっている川を大切にし、未来の海を守りたい」など、さまざまな意見が発表された。海のない埼玉県でも自分たちができることについて意見を交わし合い、理解を深めた。

最終日は、ボディーボードを使い波に乗るなどして、海を満喫した。最後にライフセーバーイング修了証を受け取った。

最後はまとめとして学習レポートに自由に表現。「出かけた際もゴミを出来るだけ減らし、出したら持ち帰る」「海に繋がっている川を大切にし、未来の海を守りたい」など、さまざまな意見が発表された。海のない埼玉県でも自分たちができることについて意見を交わし合い、理解を深めた。

最後はまとめとして学習レポートに自由に表現。「出かけた際もゴミを出来るだけ減らし、出したら持ち帰る」「海に繋がっている川を大切にし、未来の海を守りたい」など、さまざまな意見が発表された。海のない埼玉県でも自分たちができることについて意見を交わし合い、理解を深めた。

海と日本 PROJECT in 埼玉県

学習レポート

川にはこんな生き物がいたよ 調査: 埼玉県寄居町 宮川
浜辺でゴミ拾いをしたよ 調査: 茨城県大洗町 大洗サンビーチ
海での学習 調査: 茨城県大洗町 大洗サンビーチ

以下は各参加者の手書きの学習レポートです。

- 吉田実莉さん
- 泉山侑希さん
- 田中結依子さん
- 古山政宗さん
- 土屋怜央さん
- 古川輝樹さん
- 平野蒼真さん
- 富留健太さん
- 満山愛斗さん
- 堀川凱音さん
- 下池大翔さん
- 中村大貴さん
- 鈴木悠音さん
- 丹羽優介さん
- 守屋心春さん
- 金子風吹さん
- 中村美羽さん
- 丹羽美和さん

私たちができることを考えよう!